

2007年度 研究開発室 事業報告

1. 大学図書館の研究・研究支援機能高次化に関する動向調査

以下の機関等の施設調査、行事参加を通じて、大学図書館等の活動動向、研究支援機能についての調査を行った。

神奈川県立図書館、神奈川県立川崎図書館、国立国会図書館関西館、長崎大学附属図書館、和歌山大学附属図書館・紀州経済史文化史研究所

東北大学創立100周年記念展示「東北大学の至宝－資料が語る1世紀－」（江戸東京博物館）、シンポジウム「プレザベーション・マネジメント－資料保存の新しい地平－」（情報保存研究会・日本図書館協会）、「国立国会図書館データベースフォーラム2007」（国立国会図書館）、第9回図書館総合展、新収古写真展『写真術の渡来と初期写真家たち』・古写真研究国際カンファレンス「イメージの中の国際交流」・古写真研究公開シンポジウム「古写真にみる世界史の中の長崎」（長崎大学附属図書館）、シンポジウム「大学出版会と大学図書館の連携による『新しい学術情報流通の可能性を探る』」（慶應義塾大学）

2. 歴史的・文化的資産データ集積事業

三重県生活部県史編さんグループとの連携により、19～22年度に涉って三重地域の歴史的・文化的資産に関する文献のデータベースを整備するものであり、19年度は附属図書館研究開発室は大学紀要類および学協会誌類の調査を分担し、調査カードでのデータ収集を行った。

3. 伊勢新聞記事データベースの整備

附属図書館の架蔵する伊勢新聞マイクロフィルム・コピー製本について、機会を捉えて記事の把握を行うこととし、19年度は昭和戦前期の宇治山田における神都計画の動向に関する記事抽出を行った。

4. 三重大学文化フォーラムの実施

三重大学と相互友好協力協定を結んでいる志摩市、伊賀市、朝日町を開催地として、「三重大学・志摩市 文化フォーラム」、「三重大学・皇學館大学 伊賀市文化フォーラム」、「三重大学・朝日町 文化フォーラム」を各6回開催した。

5. 「発見塾」三重大学シリーズの後援

津文化協会主管、津市教育委員会主催で行う「発見塾」三重大学シリーズを創造開発研究センターとともに後援し、主管者・主催者に協力して企画、運営を行った。計6回の講演を津市図書館、河芸中央公民館、白山総合文化センターを会場として実施した。

6. 三重大学附属図書館の所蔵資料に関する研究

三重県地域の歴史・文化に関する県内高等教育機関紀要類掲載論文等（2. 参照）、昭和戦前期の神都計画に関連する伊勢新聞記事（3. 参照）、藤堂藩関連史料（8. 参照）、

川口祐二氏聞き取りテープ（9. 参照）、牧戸材木店経営資料類（10. 参照）に関する整理、調査分析を行った。附属図書館松田文庫、八重田村文書について三重県史編さんグループの協力を得て、予備的検討を行った。

7. 尾鷲市須賀利町の漁村の生活史に関する聞き書きの出版

創造開発研究センター・附属図書館研究開発室の合同により、尾鷲市須賀利町における漁村の生活史に関する聞き取り調査を実施し、原稿化を完了し、次年度の編集、出版に備えた。調査は石原義剛客員教授（創造開発研究センター）・海の博物館館長、川口祐二氏、三重大学・鈴鹿短期大学の教員、熊野古道センター学芸員、市民の参加を得た。また、三重大学で開催の「紀伊半島研究会シンポジウム」（紀伊半島研究会・三重大学生物資源学部、三重大学附属図書館研究開発室共催、平成19年12月16日）で、専任室員菅原洋一が報告「尾鷲市須賀利町における地域総合調査ワークショップ」を行った。

8. 「藤堂藩の研究」の出版

学内外の研究者による、藤堂藩に関する研究交流と、研究成果刊行を目標とした藤堂藩史研究会（代表教育学部藤田達生教授）に専任室員菅原洋一が参加した。研究成果「藤堂藩の研究」（藤田達生監修・藤堂藩史研究会編、平成20年度刊行予定）には附属図書館蔵資料「藤家忠勤録」の翻刻、専任教員菅原洋一の論文「津祭礼絵巻の世界」が収録される予定である。

9. 川口祐二氏聞き取りテープの受入、整理、媒体変換

エッセイスト川口祐二氏が、全国漁村の生活史に関する調査で蓄積された録音テープ計194本、関連図書を寄贈いただき、受け入れた。録音テープの目録を作成するとともにDVDへの媒体変換を行った。また、図書館展示コーナーで関連展示「川口祐二と漁村生活の聞き取り」（2007年10月15～21日）を行い、三重大学で開催の「紀伊半島研究会シンポジウム」（紀伊半島研究会・三重大学生物資源学部、三重大学附属図書館研究開発室共催、平成19年12月16日）で、川口祐二氏の記念講演「漁村の聞き書き20年」を実施した。

10. 生物資源学部研究資料の受入、整理

戦前期の松阪で材木商を営んだ牧戸材木店の経営資料類を、三重大学大学院生物資源学研究科森林総合環境学研究室より受け入れ、整理、暫定目録作成を行った。今後平成20年度に補足調査を行い、目録と資料の公開を行う予定である。

11. 「藤堂高虎公入府四〇〇年と津の町展」の実施に向けての企画調整

歴史研究者樋田清砂氏の所蔵資料を中心とする、藤堂藩に関連する資料展を平成20年度に実施するための企画調整および準備作業を行った。コレクション展は津文化協会が主催者、附属図書館研究開発室、三重県史編さんグループ、三重県立博物館が協力機関となり、藤堂高虎公入府400年記念事業として、津市および岡三加藤文化振興財団の助成を得て、平成20年10月8日（水）～13日（月）に津リージョンプラザで開催の予定である。

12. 研究開発室の体制整備

平成19年4月1日に小林英雄（附属図書館長）を室長とする附属図書館研究開発室が設置され、6月1日付で、専任教員菅原洋一教授（創造開発研究センターから配置換）、兼務教員亀岡孝治（大学院生物資源学研究科教授）、同小山憲司（人文学部准教授）、客員教授佐藤義則（東北学院大学教授）が配置された。更に11月1日付で事務補佐員園部裕美が配置された。また、協力教員を学内から委嘱できることを定めた内規（平成20年4月施行）、学外の有識者を学術アドバイザーを委嘱できることを定めた内規（平成20年4月施行）を整備した。

13. ホームページのデータ整備

平成20年度当初の研究開発室のホームページ公開を目途に、ホームページのデータ整備を行った。

14. 海の博物館との連携に関するワーキンググループの運営

学長の私的諮問機関としてのワーキンググループ（東晋次理事、山田康彦教育学部長、井口人文学部長、高山進大学院生物資源学研究科教授、塚本明人文学部教授、菅原洋一附属図書館研究開発室教授）の運営を行い、海の博物館と三重大学の組織的連携の推進に関する上申書の起草、取り纏めを行った。

15. 歴史街道GIS

三重県との協働により、歴史街道GIS事業を、学術ポータルセンター事業として実施し、熊野観心十界曼荼羅、伊勢神宮お木曳きなどをHPに掲載した。また、今後、HPに掲載すべき、学術資料等について調査を行った。

16. 学術機関リポジトリの推進

学術ポータルセンター事業として本学における機関リポジトリの推進を図った。また、機関リポジトリに関する全国的動向や、他機関での運用状況等の情報収集を行った。